

各位

株式会社プライミューン

自己採取HPV検査サービス **PAPIQSS** 開始のお知らせ

パピックス

株式会社プライミューン(代表取締役社長:福永健司、兵庫県神戸市)は、2017年2月20日から、受検者が自ら採取した細胞を郵送しWEB上で結果を確認することができるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染検査サービスを開始する予定ですので、お知らせします。

【サービス概要】

女性特有のがんにおいて子宮がんは乳がんに次いで多いがんです。子宮がんには子宮頸がん^{※1}と子宮体がんがあり、子宮頸がんの年間罹患患者数は約1万人(地域がん登録全国推計値2012年)となっています。特に、20~30代の若年者層の罹患率が急増しているのが注目すべき点です。子宮頸がんは早期発見による治療が可能ですが、進行した場合の治療は困難であることから定期検診による早期発見が極めて重要です。現在、子宮頸がん検診は、子宮頸部細胞診が行われ、また子宮頸がんの主因である発がん性HPV^{※2}感染についての検査もありますが、日本での受診率は42.1%(平成25年国民生活基礎調査、厚生労働省)と低調となっています。

このたび開始するサービスは、一般の方がインターネットで申し込み、ご自身で採取した子宮頸部の細胞を検査機関へ郵送し、発がん性のHPVが存在するか否かの検査を受け、その検査結果をインターネットで確認できる検査サービスです。

検査に使用する検査キットは、日本人女性を対象に国内で開発された自己採取器具であり、安心して使用できる医療機器です。検査は当社の属するトランスジェニックグループの一員であり、国内でも20ヶ所しかないCAP(米国病理学会)の認定ラボを有する株式会社ジェネティックラボに委託して実施いたします。

一般的なHPV検査は、病院において医師による細胞採取によって細胞診と併用で行われますが、ジェネティックラボでは独自に複数の婦人科医療機関に協力をあおぎ、自己採取HPV検査の有用性について検証を行いました。その結果、当サービスで使用する検査キットによる自己採取法において、医師採取でのHPV検査の判定結果との一致率は96.5%^{※3}注と、ほぼ同等の検査結果が得られています。当サービスはHPV感染の単独検査となりますが、細胞診で発見される子宮頸がんの原因となる発がん性HPVの感染の有無を、自宅で手軽に確認できる検査は非常に有用であると考えております。

また、当サービスで使用する解析機器は、FDA(米国食品医薬品局)が承認している機器であり、トランスジェニックグループならではの高品質な検査サービスを提供いたします。

数多く寄せられる同サービスに関する問い合わせにこたえてまいりたいという思いから、トランスジェニックグループとして初めて、個人向けサービスの提供に至りました。年々健康に対する意識が高まってきている中、子宮頸がん検診の受診率がなかなか上がらない現状には、「時間がなく病院で検診を受けられない」「近隣に婦人科がない」「気恥ずかしい」等様々な理由があると考えております。我々は、本サービスの提供を通じてこれらの課題を解消し、皆様が定期的に継続してHPV検査を受けやすい環境を提供することによって、また適切な治療に結び付けていくことによって、女性の健康を守ってまいりたいと考えております。

◆ご参考

- ※1 子宮頸がん 子宮頸部(子宮の入り口)に発生するがんのことです
- ※2 発がん性HPV ヒトの皮膚や粘膜に感染するパピローマウイルスのことで、そのうちハイリスク型と呼ばれるものは子宮頸がんの原因になると考えられています
- ※3 注 各機器メーカーが推奨する細胞回収容器の仕様によって、検出率は変動することがあります



PAPIQSS
 パピックス

子宮頸がんの原因となる
 HPV (ヒトパピローマウイルス) の
 感染検査を WEB でお申し込み
 ご自宅でカンタンに受けられます

[お申し込み詳細はこちら](#)

子宮頸がんHPVについて

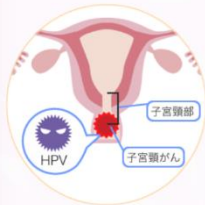


「HPVってなんだろう…。」
 「子宮頸がん検査とか受けたことがないし…よくわからないし…。」
 「病院に行くのも面倒だし…時間も無いし…。」
 「恥ずかしいから誰かに相談しにくい…。」

“子宮頸がん”

ときどきテレビなどで見かけて不安になること、ありませんか？

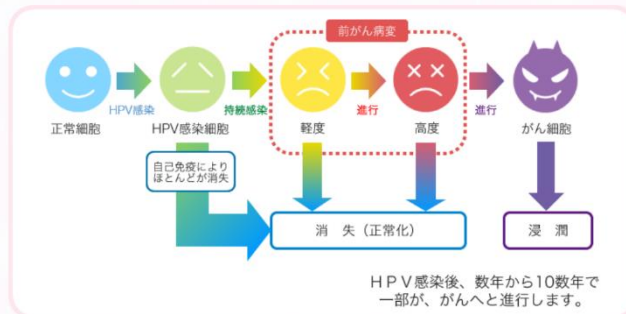
子宮頸(けい)がんとは



子宮頸部に発生するがん

子宮の入り口の子宮頸部とよばれる部分に発生するがんを子宮頸がんといいます。子宮頸がんは、性交渉のある女性ならば一度は感染するといわれているヒトパピローマウイルス (Human papillomavirus: HPV) という、ウイルスの感染で引き起こされます。

ただし感染しているからと言って、必ずしも子宮頸がんになるわけではありません。体には自然な免疫機能というものが備わっていますから、1度感染してもほとんどの場合、ウイルスは勝手に消えていきます。しかし、HPVに感染してから数年から10数年消失せず、持続感染してしまうと、やがて前がん病変(異形成)細胞となり、がん細胞へと進んでいきます。



HPV感染後、数年から10数年で一部が、がんへと進行します。

HPVに感染した細胞のサイクル図

お問い合わせ先

PAPIQSS 準備室 info@gene-lab.com